

平成 28 年度 第 1 回 麻績村総合教育会議 議事録

1. 日時 平成 29 年 3 月 28 日(火) 午後 2 時 00 分から午後 3 時 48 分

2. 場所 麻績村役場 会議室

3. 出席者

(構成員) 麻績村長 高野 忠房
教育委員会
教育長 飯森 力
教育長職務代理者 市川 祥介
委員 塚原 明水
委員 坂野 かほり
(欠席構成員) 委員 中條 勝夫
(構成員以外の出席者)
事務局職員 2 名
(傍聴者) 1 名

4. 会議内容

(会議開会 午後 2 時 00 分)

1 開会

○森山教育次長

定刻となりましたので、平成 28 年度第 1 回麻績村総合教育会議を始めさせていただきます。よろしく願いいたします。始めに、村長よりごあいさつをいただきたいと思ひます。

2 あいさつ

○高野村長

今日は平成 28 年度の総合教育会議ということで開催いたしましたところお集まりいただきありがとうございます。私の方から「これからの教育はどうあるべきか」ということで研究をお願いしているわけですが、精力的に研究をしていただいていることに感謝を申し上げます。今、麻績村だけでなく日本中で子どもたちの数は減少している訳ですが、こうした中で子どもたちにとってどんな教育が求められているのか、そして我々がどんな教育をしていかなければいけないのかという大きな課題がある訳でございます。この問題は、学校統合のあるなしに関わらず麻績村としてきちんとした方針を持つことが必要であると思っております。将来的には、我々が予想するより

も遥かに超えた社会になっていくと思われませんが、そういった中で活躍できる人材をどう育てていくのかということになると思っております。学習指導要領の改訂で、今までのゆとり教育が見直されて、脱ゆとりということになると思いますが、私も少し内容を見させていただきましたが、英語が3年から必修、5年から教科となっていくのが2020年ということですから、あと3年というところに来ている訳であります。それから、コンピューターのプログラミング教育という言葉が出てきている訳であります。今の子どもたちに何を教えていかなければいけないかということではなく、子どもたちに何の知識を身に着けていくかを考えていかなければならないということで非常に先生方には大変な時代になってきたのかと思っております。

麻績村では、今いろんな面で研究をしていただいている訳ですが、15歳、中学校卒業ですが、義務教育の出口ということで、この時にどんな生徒像をなってもらおうかということを中心にこれから明確にしていくことが必要になると思っております。生まれてから中学校卒業までといった全体の中でどんな生徒像に向かって育てていくかということになっていくのではないかと思っております。先生方もよくおっしゃっていますが、自立や自らを律して自分で物事を実践していける生徒、また生きる力を身に着けられる生徒を目指すために村の教育委員会として研究を深めていただきたいと思います。本日、頂戴した資料にもありましたが、「一貫教育」も生まれてから義務教育の出口までできればと思っております。

今の状況といたしましては、麻績村と筑北村と一緒にやっていく訳ですので、麻績村だけの考え方ではいけない訳であります。筑北村と麻績村との考え方を一緒にしてやっていこうということですが、これが村単独の考え方で行けるとなった時は違った方針が出てくることになると思っております。今後学校統合がどうなるかは不明ですが、どういう形になろうとも子どもたちは少ないわけですので、少ないという利点を生かした子どもの育て方が必要になってきます。今後の教育のあり方につきましては、最終答申に向けてご検討いただいている訳ですが、答申がまとまったから終わりということではなく、その段階からスタートだと私は思っております。先生方のお考えをいかに教育現場に理解していただくか、そして村民全体にどうやって理解していただくか。今後は村全体で教育を進めていかなければいけないわけですが、ぜひ先生方にはお知恵を出していただいて、より良い教育を目指してほしいと思っております。

麻績村では、学校教育の他にも社会教育、歴史文化を大切にするという動きもありまして、先日は伊能忠敬の関係の集まりがありましたし、宮下健司先生の「苧麻」の話もあったわけですが、大変人気があり、それだけ関心を寄せる人が多かったということでもあります。こういったものを村民の皆さんが受け止められるような形にしていくことも大事ではないかと思っております。教育委員会の関わる分野は大変広がっており、非常に高度化している訳ですが、教育の発展のためにご支援をお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

○森山教育次長

それでは、さっそく協議事項に入らせていただきます。協議の進行につきましては

村長にお願いするようになっておりますので、よろしくお願ひいたします。

3 平成 29 年度教育委員会関係予算について

○高野村長

今日の会議の内容でございますが、教育長と相談をさせていただいて内容を決めさせていただきました。それでは、3 番「平成 29 年度教育委員会関係予算について」申し上げます。事務局より説明をお願いします。

○森山教育次長

それでは、私の方から説明させていただきます。会議資料の 1、2 ページをお願いします。来年度教育委員会関係予算の概要について説明をさせていただきます。3 月の定例議会において、平成 29 年度予算が可決されております。全体で歳出の関係でございますが、231,718 千円の歳出予算であります。前年度と比べて、3,223 千円の増ということでございます。歳入・歳出の概略をそれぞれ説明させていただきますが、歳入であります。

保育所負担金であります。前年度に比べて 644 千円の増額であります。園児につきましては、5 才児 8 名、4 才児 19 名、3 才児 13 名、未満児 15 名で合計 55 名であります。平成 28 年度に引き続き、3 歳以上の 8 時間保育を無料化、未満児は規定による利用負担金をいただくようになります。第 1 子、第 2 子、第 3 子の規定につきましては、同時入所でなくても減免対象となります。

成人式の祝賀会負担金です。前年度に比べて 70 千円の減であります。隔年で祝賀会を行っておりまして来年度は筑北村が当番という事ですので、収入がなくなるというものであります。

放課後児童健全育成事業の国また県補助金であります。前年度と比較して 300 千円の減となっております。

多子世帯保育料減免事業費県補助金であります。108 千円の減になります。これにつきましては、第 3 子以降の子どもに対する軽減措置でありまして、年額 72 千円以上の減免をした場合に 1 人 36 千円、2 分の 1 になりますが収入として入ります。

補助及び助成金ということで前年度に比べ 6,000 千円の増額になります。スポーツ振興くじ助成金ですが、体育館に移動式バスケットゴールを購入したいということで、それに対する補助となります。これにつきましては、独立行政法人日本スポーツ振興センターからの補助となります。

続きまして、歳出になります。

保育園運営費ですが、前年度と比べて 4,640 千円の増額になります。臨時保育士賃金の増ということで 2,729 千円。平成 28 年度当初と比べて嘱託職員が 1 名増となります。ですが、平成 28 年度に嘱託職員がすでに増えておりますので、1 名増えるということではございません。

続きまして、教育委員会費になります。前年度と比べて 4 千円の減となります。教育委員の報酬が 84 千円減額となっております。

続きまして、事務局費になります。前年度と比べて 968 千円の減額となります。職

員の人件費の減額となりますが、職員の異動により 1,058 千円減額となります。

続きまして、学校管理費になります。前年度と比べて 3,362 千円の増額となります。修繕の関係では、灯油給油ポンプ交換修理で 748 千円。屋内消火栓設備修理で 387 千円。校舎床メンテナンスで 200 千円。給食調理室排水管修繕で 89 千円となっております。大きなものでは、図書館エアコン設置工事で 2,451 千円となります。その他、拡大コピー機購入で 452 千円。特別教室用加湿器購入で 327 千円。給食室用洗濯機で 96 千円となっております。

続きまして、教育振興費になります。前年度と比べて 245 千円の減額となります。主な経費としましては特別支援学級用タブレット購入、綱引きロープ購入があります。

続きまして、学校整備費になります。6,642 千円の減額となりますが、これにつきましては、前年度に職員用のパソコン機器更新があった訳でございますが、今年度は無いということで減額となっております。

続きまして、学校管理費（中学校費）になりますが、前年度と比べ 341 千円の増ということで麻績村分担金の増となります。

続きまして、社会教育総務費になります。前年度と比べて 3,182 千円の減となります。非常勤報酬の減ですが社会教育指導員の報酬の減ということで 1,012 千円の減額。職員人件費につきましても職員異動により 1,501 千円減額となります。

続きまして、公民館費になります。前年度と比べて 890 千円の減。これにつきましては筑北村との図書システム負担金が減額ということで 873 千円減額となっております。

文化財保護費につきましては、前年度と比べて 2,692 千円の減。大きな内容といたしましては神明社、重要文化財保存事業補助が 2,372 千円の減額となっております。

続きまして、放課後子どもプラン推進費になります。前年度と比べて 210 千円の増となります。主なものとしましてはおみっこ元気くらぶ施設使用料を 150 千円増額とさせていただいております。

続きまして、保健体育総務費になります。前年度と比べて 96 千円の減額となります。委員報酬、スポーツ推進委員報酬が 63 千円の減となります。

最後になりますが、体育施設費が前年度と比べて 9,389 千円の増となります。体育館下の砂利の駐車場の整備工事として 951 千円。また、歳入の方でも申し上げましたが、移動式バスケットゴールの購入ということで 9,100 千円を計上させていただいております。

平成 29 年度教育委員会予算についての概略は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○高野村長

ただいま、説明しました内容につきまして、ご意見ご質問等あればお願いしたいと思います。

○市川職務代理

平成 29 年度予算が議題に載っているのは、すでに議会をとおっている訳ですから、理解してもらいたいという趣旨で載っているということでしょうか。

○高野村長

はい。そういうことであります。何かありましたら、補正予算で対応したいと思いますが、まず当初予算を理解していただきたいということでございます。

○市川職務代理

要望であります。20年前の麻績村の文化財という冊子を新しくしていただきたいという願いをしましたが、今回は予算に計上されなかった理由を教えてください。1点、もう1点、通級指導教室が開室されますが、それに対する予算措置はどうなっているのかを教えてください。

○森山教育次長

文化財につきましては、どのように進めるかがまだ決まっておきませんので、すぐに予算に計上するということではできません。通級指導教室につきましては、平成28年度の補正予算で一部予算をみさせていただいているところであります。

○市川職務代理

平成29年度の予算としてはどうなるのでしょうか。平成28年度予算だけでは難しいと思います。

○森山教育次長

平成29年度の予算につきましては、新しい先生が来られますので、その方の考え方で進めることとなりますが、場合によっては補正での対応ということもあるかと思っています。

○高野村長

私の方から補足をさせていただきますが、文化財の冊子もありますが、村史もありますので、進めるとなると「人材」が重要となります。その辺に目途が付けばできるだけ早くと考えております。

○市川職務代理

人材を育てていくということも大事な視点だと思います。文化財に興味がある50～60歳の方をお願いをして、執筆をしていただく中で研究を深めてもらうことが人材を育てることにもつながると思いますので、文化財保護委員会の方に指導をしていただいて、次代の人を育てながら執筆をしていただければありがたいと思っております。

○高野村長

今、外部の方の話もありましたが、役場内部の人材の確保という問題もございまして、そのことも含めて検討させていただければと思います。よろしくお願いたします。通級教室につきましては、需用費等は必要になってくる訳ですが、他に予算もありますので、そちらで必要なものについて対応していただく訳ですが、まだ先生の

どのように行うのかの方針も決まっておりませんので、その後の対応となるかと思えます。その他にご意見等ございますか。

○坂野委員

図書館のエアコン設置工事はありますが、以前水道を変えた方が良いのではないかという意見がありました。それはどうなりましたか。

○森山教育次長

平成 29 年度の予算には計上しておりません。

○高野村長

小学校のエアコンはどうなっていますか。

○森山教育次長

小学校でエアコンが設置されているのは、保健室・事務室・職員室だけです。普通教室にはございません。

○高野村長

必要かどうかということもありますが、先生方ご検討いただければと思います。それでは、予算についてはよろしいでしょうか。続きまして、麻績村の今後の教育方針に関する研究会についてということで、事務局より説明をお願いします。

4 麻績村の今後の教育方針に関する研究会について

○高野村長

それでは、麻績村の今後の教育方針に関する研究会について、事務局から説明をお願いいたします。

○飯森教育長

それでは、私の方から説明をさせていただきます。資料の 3 ページになります。まだ、全体にお諮りしておりませんので、(案) であります。研究・検討事項のまとめについて説明させていただきます。

まずは、「子育て支援の充実」ということで出された意見等について申し上げます。子育て支援センター又は子育て支援部門の設置という意見がありましたが、これにつきましては保健師・SSW 等の専門職の配置がこれからは必要になるということ。家庭や地域、学校と連携をとっていくためにもそういった人材が必要という意見がございました。連携をとっていきながら生まれるから保育園、小学校、中学校とつなげることができる環境を作っていきたいということです。また、ボランティア等による指導員等の確保が必要ということでございます。

続いて、「学校教育関係」になります。学校運営につきましては少子化する中でどのように進めていくか研究しておりますが、現在のところは施設分離型の一貫校を目指

していくということで、これにつきましては9年間もしくは12年間を見通した学習体制が必要となるので、早めに計画を検討する体制づくりを進めていった方がいいとの意見がございました。先進地等の視察も行い、地域の理解を得るために情報発信を行っていくことが重要であるということでございます。また、学校、家庭、地域の連携を充実させ、支援していただける方が少ない中、様々な課題の解決ができるよう研究を進めていくべきという意見がございました。グローバル化への対応としては、ICT機器、外国語を含めて村で人材を雇用していかないと教員の方では異動があり、継続的な事業が難しいという意見がございました。また、インターネット等を活用して国内での交流を深めて、国際交流につなげていくことも良いのではないかという意見もございました。特別支援教育については、子どもたちの実態をできる限り早い段階で把握する中で学校全体で共通理解、環境づくりを行うことが重要であるということで、SCやSSW等の専門職の配置は必要であるという意見がございました。地産地消については、少子化で難しくなる点もありますが、できる限り地域の特色がある食材を利用していくということでございます。施設の安全管理、学習環境整備につきましては、避難訓練等を継続して非常時備える中で、長寿命化対策の長期計画に反映をし、計画的に改修の推進を図ることが必要であるという意見がございました。また、ICTの研修、学校関係の連携も視野に活用を検討することが重要との意見がございました。

「生涯学習・生涯スポーツの充実」につきましては、イベントが重なることがあるので、関係する機関で連携をとり、調整を行い、より良いものにしていくことが必要であり、サークルや分館活動についてもそうですが、情報提供をしっかりと行っていくことが重要であるという意見がございました。館報については投稿者が責任を持ったものにする。その他に図書館レファレンスサービスの充実や地域とのつながりを大切に考え生涯学習に結び付けること。現在、小学校ではカルタや灯籠などの地域とのつながりを大切に活動も行われています。図書館の利用方法としては、利用できるスペースの確保が難しいとお聞きしております。旧麻績小学校北校舎等の活用も含めて検討していかないと図書館での様々な講座の実施が難しくなっていくということでございます。生涯スポーツといたしましては、施設の老朽化等については、学校施設と同様に長期的な計画を立てる中で検討していきたいと思っております。また、生涯スポーツでは村民だけの対象では難しい面もあるので、広域的な活用も視野に村外参加者が加入できることも検討していく必要があるという意見がございました。部活動の問題としては、中学校コミュニティスクール関係で協議し、体育協会と連携を図っていき、十分な体制を作っていくことが重要であるというように考えております。

続いて、「青少年育成、キャリア教育の推進」につきましては、青少年育成は現状維持で進めていき、キャリア教育については農業体験等の充実としてリング栽培への参加等の検討を行い、その中で保小中の一貫性をもってできるように進めていくこと。ふるさと体験等の地域での学習の中でキャリア教育を進めていきたいということでございます。

続いて、「文化財、地域文化」につきましては、学校の授業にも取り入れていただき、文化の継承に繋げていくということ。また、「麻績村の文化財」の改訂版を検討していくこと。そして、生涯学習との連携をとる中で研究・保存・専門家の育成を進めていくこと等のご意見をいただきました。

資料の 5 ページからは【今度の研究会の進め方】についての検討結果を掲載しております。

今後の進め方といたしましては、学校教育関係、子育て支援関係の 2 つの部会を設置し、詳細等についての検討を行い、社会教育、社会体育等公民館に関する事業等については社会教育委員会、公民館運営審議会での協議をお願いしていきたいと考えております。開催時期につきましては、転退職員等が落ち着いた早い時期の開催を検討しておりますのでよろしくお願いいたします。

学校教育関係の部会を開催していくにあたりいくつかの課題等がございます。

- ・先生方の負担にならないように。
- ・全体での情報が共有出来るように。
- ・目標年度をどこに置くのか明確に。

というようなご意見をいただきました。方向性といたしましては

- ・一貫校設置年度を平成 32 年度とし、研究を進める。
- ・部会開催時期は、5 月中旬からを目途に構成員等を調整し開催していく。
- ・3 年間における検討方法をしっかり計画する。
- ・先生方一人ひとりに方向性(目標)を伝え、それぞれの教育方針の共有をする中で、全体の計画に繋げていく。
- ・現状の活動でも一貫性を持った事業であるので、しっかり見直しを行う。
- ・先進地への研修実施。
- ・県教育委員会からの支援(指導・助言)も検討。

等のご意見をいただきました。続いて、子育て支援関係の部会でございます。課題といたしましては、

- ・子育て支援センター方式または準ずる部署を設置する必要がある。
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健師等専門家の配置は、各市町村の独自の雇用が多いので、村費対応が必要ではないか。
- ・情報提供・相談体制の充実。
- ・子育て支援連携協議会の充実。子ども全体で考えるべきではないか。
- ・財政面での不安があるが、計画的に実現してほしい。

というご意見をいただきました。方向性といたしまして、

- ・早急に子育て支援センター方式または準ずる部署を設置する必要があるという中で、家庭と医療機関等の繋がりを考え、保健師の確保を必須とし、併せてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの確保を検討。
- ・ひだまりの充実を検討し、併せて相談体制の充実を図り、保育園から高校までの情報を一連したものにし、共有する。
- ・子育て支援連携協議会の充実として、子育て支援関係の指導者(コーディネーター)等の育成が必要。

といったご意見をいただきました。今説明させていただいた部分につきましては、まだ検討段階でありますので、今後ご意見をいただく中でご理解をいただき、今後の教育方針に関する研究会を進めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。

○高野村長

今、ご説明をいただいた訳ですが、今まで研究されてきた部分についてまとめてきていただきまして、まだ（案）ということですが、色んな方向が出されてあります。今日、総合教育会議でお示しされたのは、村の長としての思いも含めた形で最終的なまとめにしたいという話が教育長からありまして、この席で色んな意見を出してほしいと聞いております。自由な発言をいただきたいと思います。

ご説明いただいた中で、学校運営を9年間もしくは12年間を見通した学習体制ということは、保育園の体制も変わってくるということですね。

○飯森教育長

12年間を見通して学習体制となりますと、認定こども園も含めて考える必要があると感じております。

○高野村長

その他にグローバル化という話もありましたが、具体的にどうやっていくのかということが課題になってくると思います。可能であれば、地球の裏側や時差の無い国との交流ということもこれからできるのは無いかと思っております。ALTの活用も、ALTのみでなく、地域の人材の活用ということも考えられると思います。

○飯森教育長

課題でも載せましたが、交流する部分でICTの活用が必要となりますが、詳しい先生がいないと難しい部分があります。そこも含めてICTの整備をすすめていかないと活用が難しいですが、先生方にも負担が掛かりますので十分検討していかないと難しいと思っております。

○高野村長

今、教育長が申しあげたとおり、学校の先生に全てお願いするとなりますと大変なご負担になります。例えばですが、放課後児童クラブ等で外国語が得意な方に来ていただいて英語に慣れる足掛かりにするということもやっていけると思います。私が思うプログラミング教育は、プログラムを組むというよりも物事をプログラムの考える必要があるのだと思います。そういったプログラミングで考えるフローチャートを用いた考え方が必要になってくることが言われていると思います。そういった意味合いからも「プログラミング教育を早い段階で行っていきなさい」ということだと思いますが、麻績村の中にもプログラミングに携わってきた方がいらっしゃると思います。そういう方を活用できれば、先生方の負担も軽くできるのかと思います。ぜひ、地域の力を借りることも検討していただければと思います。

○市川職務代理

私も地域の力を借りるということに賛成であります。以前、おみ図書館でも実践済みなのですが、英語だけでなく国際交流といった中でいろんな文化圏の方にご協力いただくことがグローバル化に繋がると思います。

○高野村長

今、ホームステイの受け入れやホームステイに行くということは行っていますか。

○飯森教育長

特に行っておりません。他市町村で行っているところはございますし、英語圏だけでなくいろんな国とのホームステイが行われています。お金が掛かることではあります、できるような体制づくりをしているところもありますので、情報をしっかりと掴む中で今後に繋げていきたいと思っております。

○市川職務代理

ホームステイは本当にありがたいことです。都市部の学校では姉妹都市ということも行っているところもございますので、姉妹都市まではいかなくともホームステイというところはぜひ行っていただけるとありがたいです。南半球では、こちらと季節も逆になったり、習慣も異なっていたりしますので、そういったことから異文化理解という考え方に繋げていけるところだと思います。

○高野村長

その他に関連したご意見等ございますか。

○塚原委員

先ほども話がありましたが、麻績村内の方についても積極的に活用できるようになればいいと思います。特に、コミュニティスクールの関係で放課後学習に行っておりますが、英語先生は坂井地区の方で麻績の方はおりませんし、なかなか連携が取れていないところがありますので、麻績村としてもっと英語教育を大事に考えることが必要だと感じております。もう1点、交流という観点では麻績保育園はささべ認定こども園と交流を行っていますが、麻績小学校は特に交流という部分が弱いように感じます。姉妹校まではいかなくとも交流する学校がいると良いと思います。

子育て支援関係では、ひだまり広場をどうようにしていきたいのかが見えてこない、保育園と連携していくのか、それとも保護者の相談をしていくのか。どういったことをするのかははっきりしていませんので、どういう方向なのかをはっきりと保護者に伝えて、保育園に繋げていける施設にできればいいのかと思います。

○高野村長

ひだまり広場を始めた時の思いをしては、子どもというよりも保護者の方の交流の場というところで始まった訳ですが、子どもを連れての保護者の交流の場としての活用が進んで、「さて次の段階をどうしていくか」となった訳ですが、子育てという分野を考えていく時にひだまり広場をどうしていくかということも考えていかなければならないところではあります、現在でも一杯一杯で行っていただいているので、若者定住促進住宅の方の憩いの場ということも必要だと思いますが、麻績村には喫茶店のようなものはありません。

○塚原委員

ひだまり広場を活用していく方向よりも、まずはしっかりとした人材の確保が大事だと思います。保育園に繋げていくとすれば専門的な知識を持った方がしっかりとサポートする環境が必要だと思います。

○高野村長

環境をしっかりしていくことも大事な面だと思いますが、あまりしっかりした場にしていると参加しづらくなってしまいう方もいらっしゃるのでは、難しいです。若者定住の方は本町地区での交流はありますが、その地区だけの交流になってしまいます。

○飯森教育長

あくまでも、交流の場ということですので、何かを教えるという場ではございません。いろんな地域から来た方が皆で相談等をして悩みを共有して解決しましょうというところですので、山形村さんでは半数ぐらいの方が松本市から来ている方というところもあります。いろんな悩みを持つ保護者同士で相談して、それが保育園に繋がっていくというところで一日入園等に繋げていくという状況です。あまり関わり過ぎてしまうと嫌に思う方もいらっしゃるのでは、そこは村長がおっしゃったとおりで難しいところです。今はイベントとしては、誕生日会などを月に1回程度で行っているところです。

○高野村長

ひだまり広場は、村関係なくオープンで行っています。遠くから来ている方も少数ですがいらっしゃいますので、まずは当初の目的を定着させることが大事だと思います。

○市川職務代理

塚原委員さんから出されました学校間交流は、これからますます大事になると思います。以前は、麻績でも行われていましたが、ある時期にパッタリと止めてしまっているのでは、どうして止めてしまったのかを検討していただいて、止めてしまった理由がこちらにあるようであれば克服して次の段階に進んでいかないと「始めてみたが、止めるか」ということになりかねませんので、検証していただきたいと思います。

○高野村長

学校教育につきましては、学校統合がどうなるかによって色々な考え方が出てくると思います。例えば、一貫校等の考え方も出てくると思いますが、それについても今後、研究を進めていただく事になると思います。学校教育を研究していく中で、部会を作って研究するとありましたが、それは新年度に入ってから始めるのですか。

○飯森教育長

新年度に入ってからのご予定となっております。

○高野村長

筑北村さんの動きもある訳ですが、一貫教育も含めて将来に向けては子どもたちの人数は減少していく訳ですが、それも踏まえて研究をする必要がある訳であります。

それでは、生涯学習・生涯スポーツと青少年キャリア教育についてお聞きしたいと思いますが、おみ図書館の位置づけとしては、定着してきた訳ですが、施設的にはあの場所で問題はないですか。来館した時にいつも気になるところは給食室の前まで蔵書が出ている訳ですが。

○塚原委員

現在では、3万冊程の蔵書がありますので、建設時はもっと少ない数でしたので、本だけで一杯になってしまい、図書館の機能的な空間がなくなってしまうので、他に使う事が出来る部屋があれば良いと思います。

○高野村長

もし、学校のどこかの教室が空けば、普段はあまり見ないが大切に保管すべき本があると思いますので、そういうものを少し移すことができればと思いますが、もう少し研究していただければと思います。

○市川職務代理

蔵書の数が増えている事も確かですが、図書館での活動が非常に活発になってきて、学校教育としてのスペースは十分なのですが、社会教育としての活動が増えて事でスペースが足りないということを感じているのではないかと私は思います。学校の空き教室も使われており、スペースはありませんので、旧麻績小学校北校舎の活用やあまり見ない本については倉庫に保管するという事も考えていかなければと思います。予算が掛かる事ですので難しいとは思いますが。

中学生や高校生が勉強におみ図書館を使用するという事もありますので、学習のためのスペースというものも必要になると思います。

○高野村長

中学生がおみ図書館で調べ物をしながら学習するという事はありますね。

○飯森教育長

旧麻績小学校北校舎の活用自体は良いと思いますが、何かを常設するという事はできませんので、講座や講演会での活用は出来ると思います。ただ、本を置く・保管するという事は難しいです。近隣とくらべても3万冊の蔵書というのはかなり多い数になります。

○高野村長

定期的に無償の配布等で整理していますよね。

○飯森教育長

行っていますが、増えていっています。

○高野村長

分かりました。それでは、次に館報 600 号についてはどうお考えですか。

○塚原委員

館報編集委員と公民館の担当で考えていただいています。

○高野村長

麻績村の今後の教育方針に関する研究事項等についてのまとめをしていただいた訳ですが今後の研究会の進め方としては、転退職員等が落ち着いてからとありますが、何時開催する予定ですか。

○飯森教育長

なるべく早い時期の開催を考えております。

○高野村長

現在、麻績と筑北村別々に学校がある訳ですが、筑北村の子を麻績で受けるということもある訳ですが、もしこの地域に学校が 1 つしか無ければ、余所の地域に行かなければいけないことになります。そういったメリットもある訳なので、今後どうなっていくか分かりませんが、良い関係を築いていかなければいけないと思っています。具体的にどうなっていくかは今後になると思います。

子育て支援部会は、どういった方々で進めていく予定ですか。

○飯森教育長

福祉部門の方も入れたいので、住民課関係、学校のコーディネーター、保育園を含めていきたいと思っています。

○市川職務代理

子育て支援連携協議会と子育て支援部会で同じようなものがあるのもどうかと思いますが、その辺りはどうお考えですか。

○塚原委員

私としては、子育て支援連携協議会は障がいのある子どもたちに関連した部分になります。就学相談委員会や教育支援委員会もあるので、重なる部分や先生方には書類の作成でご負担を掛けております。子育て支援連携協議会は現在、特別支援教育の関係が主ですが、その他に公民館や教育委員会、その他の団体で社会教育での子育て支援もあるので、そういったものの整理をしていかないといけないと思いますので、子育て支援センターのようなものがあれば、その中の部門で分けて管理していけると思いますので、そういったことの検討という面でも子育て支援部会は良いと思います。

○市川職務代理

子育て支援連携協議会と教育支援委員会では、メンバーが一人違うだけかと思いますが、作業部会では支援教育の関係の方が入っていただいています。作業部会では、支援教育だけでなく、食育や体力等も話し合っています。組織的にそこしかないためにそこで検討がされていますが、先生方にも大きな負担になっていますので、組織の見直しをして、スッキリとした体制作りをするべきだと思います。

○高野村長

この問題以外にも麻績村の組織は複雑になってきています。整理するとなるとどなたかが辞めていくことになると思いますが、その方のカバーをするとなかなか難しい事だと思います。保育園から小学校に送り出すという気持ちでやっていただいていると思いますが、その後も関わっていくという気持ちを持っていただきたいと思いますが、なかなか難しいとは思っております。

○市川職務代理

子育て支援連携協議会の始まりとしては、一元化という見通しで始まっております。ここで検討されている事項についても、ゆくゆくはそこでという話でしたが、とりあえずは、障がいのある子どもたちの関係でやっていき、最終的には全ての部分をおこなって行くという事でしたので、全体的な部分として確立して、その下に部会ができると組織として分かりやすくなると思います。

○高野村長

小さい村ですので子どもの顔がわかる、一人ひとりがわかりますので、ぜひ一人ひとりの子どもに寄り添って、どうやって一人ひとりを伸ばしていくかということをしてほしいと思います。他に質問等よろしいでしょうか。

(なし)

それでは、意見交換に進ませていただきます。

5 意見交換

○高野村長

意見交換ということでございます。私の方からお願いになりますが、ぜひこれからも麻績村の今後の教育方針に関する研究を進めていただいて、始めに申し上げたような日本一の教育を目指すという意気込みで一人ひとりを大切にやって頂きたいと思います。皆さんからは何かございますか。

○市川職務代理

要望ですが、保護者の皆さんの生の声をお聞きしたいと思いますので、機会があり

ましたら村長さんに生の声を聞いていただいて、我々に指導していただければと思います。

○高野村長

分かりました。その他に何かございますか。

(なし)

それでは、その他に進ませていただきます。

6 その他

○森山教育次長

こちらでは、特に用意しておりません。

○高野村長

委員の皆さんからはよろしいでしょうか。

(なし)

○高野村長

皆様にはこれからの行政がどうなるのかを見極めていただいて教育を進めていただければと思います。以上で終わりたいと思いますが、閉会を事務局お願いします。

7 閉会

○森山教育次長

長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。以上で、麻績村総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(会議閉会 午後 3 時 48 分)